

- 問1 7世紀の朝鮮半島では、唐と新羅が結んで周辺諸国へ勢力を拡大していました。この際、唐・新羅の連合軍によって滅ぼされた国を復興させるため、倭（日本）が救援軍を派遣した国はどこですか。（2017年 静岡県公立入試 類似）
1. 伽耶（加羅）
 2. 百済
 3. 新羅
 4. 高句麗
- 問2 660年に唐と新羅が連合して百済を滅ぼし、その3年後に日本が百済復興を助けようとして唐・新羅連合軍に大敗した「白村江の戦い」という歴史的背景を踏まえ、日本が九州北部に「防人」を配置した直接的な目的として最も適切なものを選びなさい。（2020年 広島県公立入試 類似）
1. 九州地方で頻発していた政府への反乱を武力で鎮圧し、国内を安定させるため
 2. 唐や新羅の軍勢が日本列島へ攻め込んでくる事態に備え、国防を固めるため
 3. 九州北部の広大な未開墾地を兵士に耕作させ、大陸への輸出入穀物を生産するため
 4. 大陸の先進的な文化を取り入れるため、唐からの使者を九州で手厚く迎えるため
- 問3 聖徳太子が推古天皇の摂政として行った政治改革の一つで、家柄にとらわれず、個人の才能や功績に応じて位を与え、役人に取り立てる制度の名称は何か。（2018年 北海道公立入試 類似）
1. 班田収授法
 2. 十七条の憲法
 3. 冠位十二階
 4. 公地公民
- 問4 推古天皇が聖徳太子を「摂政」に登用して行った政治の説明として、当時の制度や目的をふまえたものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 静岡県公立入試 類似）
1. 日本独自の国風文化を育てるため、聖徳太子に命じて遣隋使の派遣を停止し、大陸との交流を断った。
 2. 武士の力を抑えるために聖徳太子を任命し、地方の反乱を鎮圧するための軍事指揮権を与えた。
 3. 天皇を助けて政治を行う役割として聖徳太子を据え、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を目指した。
 4. 平城京への遷都を円滑に進めるため、聖徳太子に新しい都の設計と建設の全権を委ねた。
- 問5 7世紀後半、日本（倭）は滅亡した百済を復興させるために朝鮮半島へ大軍を送りましたが、唐と新羅の連合軍に大敗しました。この戦いを何といいますか。（2022年 静岡県公立入試 類似）
1. 刀伊の入寇
 2. 元寇
 3. 壬申の乱
 4. 白村江の戦い
- 問6 日本の古代国家の歩みを記した年表において、645年の大化の改新の開始から、701年の大宝律令の制定にいたるまでの期間に起きた出来事として、正しいものはどれですか。（2019年 香川県公立入試 類似）
1. 平城京に都が移され、地方の産物を都へ運ぶための道路網が整備された。
 2. 冠位十二階や十七条の憲法が制定され、才能のある人物が役人に登用された。
 3. 皇位継承をめぐる大規模な内乱である壬申の乱が起こり、大海人皇子が勝利した。
 4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に敗れ、九州の防備を固めるために防人が置かれた。
- 問7 聖徳太子が導入した「冠位十二階の制度」の目的や内容を説明した文として、最も適切なものを選択してください。（2015年 長崎県公立入試 類似）
1. 個人の能力や功績がある人物を役人として取り立てることで、天皇を中心とする中央集権的な政治体制を築こうとした。
 2. 武士に対して道徳や礼儀を守らせるために、具体的な裁判の基準を文化して示した。
 3. 市場での税を免除して自由に商売を行わせることで、城下町の経済を活性化させようとした。
 4. 朝廷に従わない地方の豪族を監視するために、五人組の制度を用いて連帯責任を負わせた。
- 問8 7世紀中ごろ、大陸では隋に代わって強力な王朝が成立し、周辺諸国へ進取するなど東アジアの国際情勢が緊迫していました。こうした緊迫した状況を背景に、日本が周辺諸国に対抗できる強力な中央集権体制を築くために踏み切った政治改革を何といいますか。（2020年 岡山県公立入試 類似）
1. 大化の改新
 2. 遣隋使の派遣
 3. 武家諸法度の制定
 4. 国風文化の形成
- 問9 7世紀初頭、聖徳太子らが進めた国家づくりにおいて、大陸から伝わった仏教が果たした役割とその文化的な特徴について説明したものとして、最も適切なものはどれか。（2017年 佐賀県公立入試 類似）
1. 遣隋使の派遣などを通じて大陸の優れた技術や思想が伝わり、法隆寺などの本格的な寺院が建立された。
 2. 遣唐使が廃止されたことにより、日本の気候や生活に合わせた独自の貴族文化が発達した。
 3. 大宝律令の制定により全国が統治され、国家の安泰を願って東大寺に大仏が造られた。
 4. 稲作の技術とともに青銅器や鉄器が伝わり、卑弥呼が中国の魏から金印を授かった。
- 問10 7世紀後半、朝鮮半島での「白村江の戦い」において唐・新羅の連合軍に大敗した倭（日本）は、大陸からの侵攻に備えて国防を強化しました。この時、西日本の各地に山城を築き、九州の沿岸に「防人」を配置した人物は誰ですか。（2016年 秋田県公立入試 類似）
1. 聖武天皇
 2. 中大兄皇子
 3. 白河上皇
 4. 足利義満
- 問11 飛鳥時代、推古天皇の摂政であった聖徳太子が、天皇を中心とする国づくりを進めるために制定した、役人が守るべき道徳的な心得を何といいますか。（2018年 三重県公立入試 類似）
1. 御成敗式目
 2. 武家諸法度
 3. 十七条の憲法
 4. 公事方御定書
- 問12 645年に中大兄皇子らが中心となって始まった大化の改新の後、日本は朝鮮半島での戦いに敗れ、外交・国防上の大きな転換期を迎えました。この時期の出来事について述べた文として最も適切なものはどれか。（2025年 岐阜県公立入試 類似）
1. 白村江の戦いの敗北を受けて、地方を統治する国司の権限を大幅に強め、各地方の豪族に独自の軍事権を与えた。
 2. 白村江の戦いで新羅を援護して唐を退けた後、百済との同盟を強化して朝鮮半島での権益を拡大した。
 3. 唐や新羅の脅威に対抗するため、中大兄皇子は天皇への即位を辞退し、蘇我氏とともに集団指導体制を敷いた。
 4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した後、侵攻に備えて九州に水城を築き、都を近江大津宮へ移した。
- 問13 7世紀後半に起こった壬申の乱について、その出来事の背景や結果を説明した文として最も適切なものはどれか。（2017年 高知県公立入試 類似）
1. 地方武士の不満が高まったことで発生し、平将門が関東で自ら「新皇」を名乗って朝廷に反旗を翻した。
 2. 仏教勢力の影響を排除し、政治を立て直すために、桓武天皇が都を平城京から平安京へと移した。
 3. 天皇を退位したあとも政治の実権を握ろうとした白河上皇が、藤原氏の摂関政治を抑えるために院政を開始した。
 4. 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。
- 問14 聖徳太子が行った対外政策について述べた文として、当時の外交姿勢を正しく説明しているものはどれか。（2020年 熊本県公立入試 類似）
1. 朝鮮半島での影響力を強めるため、百済と同盟して唐を攻撃した
 2. 隋の皇帝の臣下として認められるため、金印を授かるよう求めた
 3. 遣隋使を派遣し、中国の王朝と対等な立場での外交を求めた
 4. 外国の文化を一切遮断するため、遣唐使の派遣を停止した

答え合わせ・解説

問1	答え 2 百済	飛鳥時代、朝鮮半島では新羅が唐と結んで勢力を強め、660年に百済を滅ぼしました。日本（倭）は古くから交流のあった百済の遺民から救援を求められ、中大兄皇子らの指揮のもと、百済復興のために大軍を送りました。しかし、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗し、百済復興の計画は失敗に終わりました。
問2	答え 2 唐や新羅の軍勢が日本列島へ攻め込んでくる事態に備え、国防を固めるため	660年の百済滅亡と、663年の白村江の戦いにおける日本の大敗により、当時の日本（倭国）は唐や新羅による報復的な侵攻を受ける可能性を非常に危惧しました。このため、天智天皇は大宰府などがある九州北部の守りを固めるために「防人」を配置し、あわせて水城（みづき）と呼ばれる堤防や、山城などの防御施設を築いて、国家存亡の危機に備える体制を整えました。
問3	答え 3 冠位十二階	才能や功績に応じて冠の色で位を分けた制度は冠位十二階である。これにより、従来の氏姓制度にとらわれず有能な人物が登用される道が開かれた。十七条の憲法は「和を以て貴しとなす」など役人の心構えを示したものである。
問4	答え 3 天皇を助けて政治を行う役割として聖徳太子を据え、豪族中心の政治から天皇中心の政治への転換を目指した。	推古天皇の時代、有力豪族である蘇我氏の影響力が強い中で、天皇は聖徳太子を摂政に任命することで、血縁や家柄に依存しない官僚制（冠位十二階）などの導入を図りました。これは、特定の豪族に権力が集中するのを防ぎ、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くことが目的でした。
問5	答え 4 白村江の戦い	663年に朝鮮半島の白村江で行われた戦いです。当時、日本と親交の深かった百済が唐と新羅によって滅ぼされたため、その再興を支援するために出兵しましたが、圧倒的な軍勢力を誇る唐・新羅の連合軍に敗北しました。この敗戦を機に、日本は大陸からの侵攻に備えた国内防衛と、中央集権的な国家体制の構築を急ぐことになります。
問6	答え 3 皇位継承をめぐる大規模な内乱である壬申の乱が起こり、大海人皇子が勝利した。	壬申の乱は672年に発生しました。これは大化の改新（645年）よりも後であり、本格的な律令である大宝律令（701年）が完成する前の時期に相当します。この乱を経て即位した天武天皇が「天皇」という称号や「日本」という国号を使い始めたこととされています。白村江の戦いは663年ですが、壬申の乱はその後の出来事として重要です。
問7	答え 1 個人の能力や功績がある人物を役人として取り立てることで、天皇を中心とする中央集権的な政治体制を築こうとした。	この制度の画期的な点は、家柄に関係なく「能力（功績）」を評価基準としたことです。これにより、それまで政治の実権を握っていた特定の有力豪族の力を抑え、天皇に忠誠を誓い実務能力に優れた役人を育成することで、国家としてのまとまりを強化する狙いがありました。
問8	答え 1 大化の改新	大陸で隋が滅びて唐が成立すると、唐は朝鮮半島の高句麗など周辺諸国へ攻撃を仕掛けるなど勢力を拡大しました。この国際情勢の変化に危機感を抱いた中大兄皇子や中臣鎌足らは、蘇我氏を倒して天皇を中心とした強力な国家体制を整えようとししました。これが645年から始まる一連の政治改革である大化の改新です。
問9	答え 1 遣隋使の派遣などを通じて大陸の優れた技術や思想が伝わり、法隆寺などの本格的な寺院が建立された。	飛鳥時代には、小野妹子ら遣隋使が派遣され、大陸の高度な文明が積極的に導入されました。これに伴い、寺院建築の技術や彫刻の技法ももたらされ、それまで日本になかった本格的な仏教文化が飛鳥の地を中心に花開きました。他の選択肢にある国風文化は平安時代、大仏建立は奈良時代（天平文化）、卑弥呼は弥生時代の出来事です。
問10	答え 2 中大兄皇子	663年の白村江の戦いで敗北した後、中大兄皇子は唐や新羅による日本本土への侵攻を強く警戒しました。そのため、大宰府を防御するための「水城」や西日本各地の「山城」を築くとともに、東国から集めた農民を「防人」として九州北部の警備にあたらせました。彼は後に天智天皇として即位し、近江大津宮へと遷都しました。
問11	答え 3 十七条の憲法	聖徳太子は、有力な豪族たちが勢力争いを続けていた当時の状況を改善し、天皇を中心とした中央集権体制を築くことを目指しました。そのために、儒教や仏教の教えを取り入れながら、役人としての心構えを説いたこの法を定めました。選択肢にある他の法は、鎌倉時代の武士のための法（御成敗式目）や江戸時代の大名・裁判のための法であり、時代や対象が異なります。
問12	答え 4 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗した後、侵攻に備えて九州に水城を築き、都を近江大津宮へ移した。	中大兄皇子は百済復興のために軍を派遣しましたが、663年の白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に大敗しました。その後、日本への侵攻を恐れた中大兄皇子は、九州に防御施設である水城や山城（朝鮮式山城）を築き、都を内陸の近江大津宮（滋賀県）へ移して防衛を固めました。天智天皇として即位するのもこの時期のことです。
問13	答え 4 天智天皇の後継者をめぐって起こり、勝利した大海人皇子が天武天皇となって天皇中心の国づくりを進めた。	壬申の乱は、大化の改新から続く律令国家形成の過程で発生した極めて重要な内乱です。勝利した天武天皇は、それまでの豪族中心の政治から、天皇に権力を集中させる政治体制へと移行させ、後の大宝律令の完成へとつながる基礎を固めました。他の選択肢は、8世紀末から11世紀にかけての異なる時代の出来事です。
問14	答え 3 遣隋使を派遣し、中国の王朝と対等な立場での外交を求めた	小野妹子を遣隋使として派遣した際、国書の中で中国（隋）の皇帝に対して対等な立場であることを示そうとしました。これは、中国を中心とした従来の秩序から自立し、独自の国家としての地位を確立しようとする意図がありました。